

第1回 神戸アートビレッジセンター地域活性化機能検討会 議事要旨

| 日 時 | 令和3年4月30日(金) 15:00-17:20

| 場 所 | 神戸アートビレッジセンター会議室1・2およびオンライン(ZOOM)

| 議事内容 | ①検討会発足の背景及び目的

②検討会の方向性・進め方について

③神戸アートビレッジセンターの事業概要の共有

④地域、施設に関する各委員の意見交換

| 委員からの意見・提案 |

① 検討会発足の背景及び目的 (資料6)

〈事務局〉

- ・神戸アートビレッジセンターは、新開地アートビレッジ構想の具現化として整備され、令和3年で25年を迎える。これまで同施設は関西アート界において、小劇場系演劇・現代美術の発掘・発展に役割を果たしてきた一方、地域活性化に十分な役割を果たしてきたと言いき難い面がある。25年を機に、アートに関心がある人々だけでなく、地域や若者・一般の市民が日常的に訪れ利用される、話題を生む場所となるために必要な見直しを実施するためにこの検討会を発足した。
- ・有識者、地域関係者、行政等で検討委員を構成し、多角的な視点で検討したい。

② 検討会の方向性・進め方について (資料1、2、5)

〈事務局〉

- ・今回を含め6回程度検討会を開催し、9月頃には検討会での意見を踏まえてKAVCの活性化に向けた方針案を策定したいと考えている。
- ・ネットモニターアンケートに加え、近隣住民へのアンケートを実施し、利用者目線での意見収集も実施したいと考えている。
- ・必要があれば施設の改修等を経て令和5年度を目安にリニューアルできればと考えている。
- ・今回は新型コロナウイルスの影響もありオンライン開催としているが、今後はできる限り顔を合わせながら進めていきたいと考えている。

③ 神戸アートビレッジセンターの事業概要共有（資料3-1、3-2、4、7）

〈指定管理者〉

- ・資料に沿って神戸アートビレッジセンター(以下、KAVC)で実施してきた事業および施設について概要説明。
- ・アートに縛られすぎている部分はあり、1階の多角的な使い方を検討する必要性を感じている。アートの場であることも守りながら地域への開放の両輪で考えれば可能性があるのではないかと考える。

〈委員〉

- ・アンケートなどで施設に対するマイナス評価があれば聞きたい。
→トイレが和式のものが残っていること、映画館の客席の質が良くないこと、貸室で飲食できない状況に対しての不満（コロナもあり1階ホールの座席も撤去している）など。
- ・スタジオやアトリエのリピー率は？
→数字はないがリピー率は高いと感じる（同じ人が利用している印象）。
- ・自主事業として長期間展覧会を実施しているものはあるか。
→コロナ禍の中ではARTLEAPのみで貸館が多い状況。
- ・1階が暗いのは重要な問題。ギャラリーとしてホワイトキューブにもなっておらず、自然光も入ってしまう。地下のシアターの方が光を使うようなインスタレーションにも使いやすいのではと感じる。

④ 地域、施設に関する各委員の意見交換

〈事務局〉

- ・KAVCの施設および新開地のまちについての印象や課題、活性化に向け現時点で考えられる施策などあれば自由にご意見頂きたい。

〈委員〉

印象・課題

- ・地域にどのように溶け込めるかは課題と感じる。地域の人にわかりやすい存在になれば。
- ・児童を学校から連れ出すにあたって保護者の壁などあり、学校のプログラム等に組み込みにくかった背景はある。
- ・照明の暗さもあり、中が見えにくく入りにくい。呼ばれている人しか入ってはいけない雰囲気がある。
- ・周辺の声も含め、KAVCといえば暗い、という印象。
- ・自分に用事がある場所かわからない。シアターなどの目的がなければ他の階でどういうことをしているかわからない。
- ・1階のギャラリーは奥まっけて何をしているかわからない。
- ・トイレの老朽化は長年の課題。特に女性・子供にとっては使いにくい仕様となっており、

悪印象の一員となっている。

- ・ポートピアの入口のガリバーの椅子など、まちなかにアート作品もあるが誰も知らない。
- ・路上で飲酒している人たちがまちに良くない印象を与えている。
- ・はっちゃんの台所ができてから入りやすくなった。
- ・はじめて足を踏み入れた。素晴らしい施設があるのに知られていない。周知が不足している印象。
- ・昔の状況から地域に良くない印象を持っており、近寄りにくい世代層も一定いる。逆に今はとてもクリーンになった印象。

施策

- ・学生の実習の場としての可能性はある。神戸駅周辺にも学生マンションが多く、三宮からのアクセスも悪くない。
- ・子育て世代を呼び込みたいのであればおむつ替えスペースやトイレの改修は必要。
- ・土曜マルシェなどは近隣住民の参加者が多いため、自転車が置きやすい環境を整えてあげると来やすいのではないか。
- ・興味を持ってもらうためには外から見てわかりやすいことが大事。
- ・施設だけでなく周辺のまちも含めて検討していくべき。
- ・新開地自体にはそれなりに人は来ているが、空き店舗もあるので活用できたら。
- ・図書館の貸し借り窓口などがあれば立寄ってもらいやすいのではないか。
- ・子供たちの作品展示、逆に学校に芸術家を講師として招くことも考えられる
- ・ママフレなどと連携できれば良いのではないか。
- ・部屋の配置を変えて歩いてもらうだけでも違うかもしれない。
- ・みなとがわ公園のふわふわドームは子育て世帯がわざわざ遠くからでもきているようだ。他にはなく、子供があそびたかったら行くような施設になればリピートしてもらえるのでは。例えばペンキをぶちまけるような、家の中でできないことをできるような場所になれば。
- ・アートビレッジ構想にも記載があるが、ミューラルアートなどは新開地の場所性と相性が良いのではないか。
- ・まちのリビングのような場として入りやすく、足を踏み入れた先にアートとつながるようなことが考えられればと思う。